

運送業界の健康支援を生きがいに

65 大きく変わる点呼のあり方

「点呼」のあり方が、大きく変わろうとしています。国交省から示された「事業用自動車運転者の健康管理にかかわるマニュアル」(7月1日付)では、従来の「酒気帯びの有無及び疾病、疲労・確認」という表現に加え、どういう人に、どういう質問をするかといった、具体的な健康チェック項目が挙げられています。

◆新たに求められる、健康チェック

チェック項目には、「熱はないか」「疲れはないか」「気分は悪くないか」「おなかをこわしていないか」「眠気を感じないか」「けがなどで痛みを我慢していないか」「運転上、悪影響を及ぼす薬を服用していないか」「その他、健康状態に関して何か気になることはないか」の8項目があります。

さらに治療中のドライバーには、「定期的に通院しているか」「処方された薬をしっかりと飲んでおり「医師からの指示事項を守っているか」のチェックに加え、高血圧症、心血管系疾患、糖尿病別に、各病気に応じた個別のチェック項目が複数あり、「確認すべき事項」として明記されています。

◆ダイヤモンド情報の有効活用
従来の関係者の認識では、運行管理者がドライバーの健診結果や受診状況を知ることが、プライバシー保護の観点から、むしろタブー視されていたのではないのでしょうか。

しかし、これらを把握しなければ、健康起因事故を防ぐことができません。「適切な運行管理」とはいえないことを本マニュアルが示唆

しています。これら一連の情報はプライバシーを保護しながら、必要な部署(人事・労務・事故対策担当)がしっかり認識し、活用していくことが重要です。

さらに、睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査結果・健診結果及び受診状況・事故歴とその事故原因やヒヤリハットなどのデータや報告は一連管理し、各部門においてぜひ共有保有してください。個別管理では見えなかった対策が必ず浮かび上がってきますので、私ほこれを「ダイヤモンド情報」と呼んでいます。事故事例検討会や事故惹起者への個別指導にも、ぜひ活用していただきたい、大変貴重な情報です。

◆笑顔とコミュニケーション
さらに点呼時に実践していただきたいのが、「声確認」です。声の大きさ、張り、トーンなどは身体の微妙な健康状態をも表すといわれています。声の確認のためには、何れともあれ挨拶ですね。元気な声・挨拶・笑顔があれば、それだけでも、もうコミュニケーションが図れますね。

ぜひ、安全走行の司令塔である運行管理者から率先して、「気をつけて」と大きな声でドライバーを送り出してほしい。

《全日本トラック協会・大阪府トラック協会 SAS検査受託機関》

NPO法人 大阪ヘルスケアネットワーク 普及推進機構(OCHIS)

理事 作本 貞子

TEL: 06-6965-3666

FAX: 06-6965-5261

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>

(次回は12月13日号に掲載)

